



シルバークレイアカデミー10周年記念

2008 PMC conference in ASO

2008 PMCカンファレンス in 阿蘇

日程:2008年11月1日(土)~3日(月) 会場:熊本県城大学 阿蘇研修所



2004 PMCカンファレンス in 神戸より



会長

栗元 一久

Kazuhisa Kurimoto

シルバークレイアカデミーも発足から10年の節目を迎え、認定者数も750名を超えるました。最初のインストラクター取得者から3代目、4代目のインストラクターが誕生するなど、皆様のご活躍のおかげで多くのPMCファンが確実に育っています。そこで今年、シルバークレイアカデミーのメンバーの方に、共通の目的を持つ者同士の連帯感を感じて頂くことを目的に、「シルバークレイアカデミーPMCカンファレンスin阿蘇」を開催することになりました。今回は外部から、金工・彫金の芸術の世界で日本を代表する市村禮子先生、銀粘土の立ち上げからそのデザインを手がけてこられた南雲理枝先生、そしてPMCを発明された工学博士の森川正樹博士をお招きし、阿蘇の大自然の中の研修所で、講師の皆様の価値あるセミナーや講演、親睦会を企画しています。ぜひ、PMCを休止していた方も含め、多くの方にご参加いただき、楽しい3日間を過ごしましょう！

なにはともあれ、参加する事に意義があるのです。



本部講師

後田 麗

Ushirota Ushirota

藤井本部講師から本部講師を引き継いで、早くも3年が経ちました。今年は初心者向けのPMCの出版本を出しましたが、その本が一般の多くの方に読んで頂いていることをお聞きして、本当にうれしく思っています。きっかけはともあれPMCの面白さは、テクニックを開発、研究していると、あれもできる、これもできる…という可能性が広がる度に倍増していきます。だからこそインストラクターや作家を目指す皆様には、多くの事を学んで頂きたいと思うのです。多くの事を集中的に学べるこのカンファレンスは、そんな皆様に絶好の機会だと思います。学生気分で、ぜひご参加ください。また、今回のカンファレンスでは特別セミナーとして、スタンダードコース・アドバンスコース・アートジュエリーコースの審査基準がどこにあるのか、A合格にならない注意点なども、Aインストラクター、講師の皆様を対象に、それぞれの審査講師から解説致します。インストラクター養成講座を開講されている方はぜひご参加ください。

テクニカル  
アドバイザー

田尻 鏡香

Mika Tajiri

PMCと出会って、早10年が経ちました。その間PMCを通していろんな方と出会うことができました。モノ作りとは、たった一人で作っていても、楽しさ、苦労、満足感、達成感を味わうことができるものです。それを教室で作ることによって、楽しさをみんなで分け合って倍増し、苦労をみんなで分け合って半減させることができます。そしてその先にそれが幸福感を感じてくれたらしいなあといつも思っています。

カンファレンスは知らない人ばかりで…と思われるかもしれません、私たちにはすでにPMCという共通点があります。隣に座っている人、立っている人にどんどん声をかけて、ぜひこの機会にたくさんの方と出会ってください。そして横のつながりを広げることで共有できる仲間の想いや結集力が、シルバークレイアカデミーを、更に魅力的な組織にしてくれると思っています。私自身もたくさんの人と出会えることを楽しみにしています。

三菱マテリアル  
株式会社  
三田工場製造部長

平澤 寿一

Iyuichi Hirasawa

シルバークレイアカデミー発足10周年、そして自然豊かな阿蘇でのPMCカンファレンス開催おめでとうございます。私は兵庫県の三田市で、PMCファンの皆様がシルバーの作品作りに没頭している姿を想像しながら、日夜粘土をコネコネしている三菱マテリアルの平澤でございます。栗元会長ご夫妻には、シルバークレイアカデミー発足以前から懇意にして戴き、『兄弟船』は両手では足らないほど合唱させて戴いております。さて、ここ数年の銀地金価格の高騰という逆風にも係わらず、世界のPMC人口は増加を続けております。今年の7月には4回目になる米国PMCカンファレンスにも同席させて戴き、現在3000名を超える米国PMCギルドメンバーのPMCに対する熱い想いの一端を感じ取ることが出来ました。シルバークレイアカデミーの皆様には、今回の講演・セミナーを通してPMCの可能性、奥の深さを実感して戴き、未永く作品作りを続けて戴ければ幸いです。カンファレンスでは、皆さんの沢山の笑顔を楽しみにしています。

◆今回のカンファレンスでは、作品を制作する上で最も大切なデザインを学ぶ為に、アートとしての彫金、金工の作家であり、講師でもある市村禮子先生と、コンテンポラリーなジュエリーデザインで人気の南雲理枝先生をお招きし、ジュエリーデザインの基本や、自分が身に着けるジュエリー、販売する為のジュエリー、作品展に応募するためのジュエリーなど、目的を明確にしたジュエリーデザインの考え方をお教いいただきます。



市村先生にはアメリカのPMCカンファレンスで出会いました。その歯に縫着せぬするどいつっこみで、アメリカの皆さんをドギマギさせる知識の豊富さと流暢な英語に、日本人参加者は圧倒されました。芸術的なデザイン力と貴金属を熟知された市村先生が特別に通訳されるので、カンファレンスでは私たちにとてもわかり易く解説してくださいます。けれど市村先生は通訳どころか、アートの世界では彫金や金工の講師として、アジアやヨーロッパ、アメリカから招かれる偉大な先生なのです。今回のカンファレンスで、先生はセミナーや講演会を通じて、惜しみなく知識と経験を皆さんにお話してくださいます。それはきっと、皆さんの欲しかった部分を満たしてくれる、すばらしい時間になると確信しています。

## 略歴

●米国インディアナ大学美術学部陶芸科及び同大学ジュエリーデザイン金工科助手 ●国際交流展  
(韓国・台湾・英国)のコーディネイト ●彫金・金工に関する講演、並びに実技指導(アジア・ヨーロッパ・南アフリカ) ●元日本ジュエリーデザイナー協会会員 ●北米金工作家協会会員 ●日本工芸協議会理事

## 市村 禮子

Reiko Ichimura



南雲先生はアートクレイの元社員で、銀粘土を世に広めるために企画、デザイン、制作、技術指導をしてこられたスーパーワーマンです。現在はPMCの普及の為にそのデザイン力や指導力を活かして、企業のデザイナーへのワークショップやアート系大学の非常勤講師としてご活躍です。昨年、シルバークレイアカデミーの新しい認定カリキュラム「アートジュエリーコース」のデザインを手がけて頂き、現在同カリキュラムで通信講座をお願いしています。また、余暇を楽しむ男性をフォローする「日本全国ギンダラケ俱楽部」と一緒に立ち上げ、活動して頂いています。

## 略歴

●東京造形大学造形学部テキスタイルデザイン科卒業。2002年にRIE DESIGN STUDIOを設立。  
フリーのデザイナーとしてジュエリーの企画、デザイン、制作を手掛ける。  
<著書> 白磁と純銀粘土のアクセサリー(日本ヴォーグ社)、南雲理枝のシルバーアクセサリー(雄鶴社)  
南雲理枝のハンドメードアクセサリー(雄鶴社)  
<監修> シルバーリングデザイン(雄鶴社)、逸品手作り 男の銀細工(学研)

## 南雲 理枝

Rie Nagumo



森川氏は工芸家のお父様の影響で手づくりに造詣が深く、そのことが影響して銀粘土の発想が生まれたとか。今の私たちの愉しみは、森川博士の発明のおかげなのです。けれど博士の発明はそれだけに留まらず、今やキムタクの印象も深いジョージアの「純金名刺」も博士の発明によるものです。発想の転換が生み出す奇跡を、そしてその裏の苦しみを、森川博士から講演して頂きます。

## 略歴

●1971年大阪大学大学院工学研究科博士課程修了、三菱金属鉱業株式会社(現三菱マテリアル)入社  
●1987年 大阪製錬所勤務時にダイヤゴールド、純金カード発明(現在の純金名刺)  
●1990年 三菱マテリアル三田工場 副工場長就任 ●1991年 純銀粘土発明  
●1993年 同社三田工場長就任 ●1998年 同社取締役 先端事業本部長就任  
●1999年 三菱マテリアルシリコン株式会社 常務取締役就任  
●2004年 (株)SUMCO 専務取締役、生産、技術本部長就任 ●2008年 ジャパンスーパークオーツ(株) 顧問就任

## 森川 正樹

Masaki Morikawa

## カンファレンス会場

## 「崇城大学・阿蘇研修所」

〒869-2302 熊本県阿蘇市三久保

TEL:0967-32-3741

●JR豊肥本線赤水駅にて産交バス内牧行きに乗り換え  
千丁無田で下車、徒歩3分。



# Time Schedule タイムスケジュール

	11.1 sat	11.2 sun	11.3 mon
9:00			
10:00			
11:00		セミナー3 (10:00~11:30) 「シートタイプのクイリング テクニック」講師/後田麗	
12:00		セミナー4 (11:30~12:00) 「ティア・アウェイとシリコンで作る シートとその応用」講師/後田麗	
13:00		昼食	
14:00	開会式／オリエンテーション (14:00~15:00)	セミナー5 (13:00~14:00) 「漆黒のいぶし」講師/市村禮子	
15:00	セミナー1 (15:00~17:00) 「立体構成のジュエリーデザイン」 講師/市村禮子	休憩 (15分間)	
16:00	セミナー2 (17:15~18:15) 「ソフニングの解説と彩りいぶしの ハイテクニック」講師/後田麗	セミナー6 (14:15~15:15) 「アクセサリーパーツ使いの基本と ワイヤーワーク」講師/田尻鏡香	
17:00	休憩 (15分間)	休憩 (15分間)	
18:00	講演1 (18:00~19:00) 「発明者が語るPMCの開発秘話」 講演/森川正樹	セミナー7 (15:30~16:30) 「私のPMCジュエリー、イメージを形 にするプロセス」講師/南雲理枝	
19:00	ウェルカム夕食会 (18:30~20:00)	休憩 (15分間)	
20:00	インストラクター対象特別研修会 「カリキュラム別認定審査基準の 解説」(20:00~21:30) ※必要に応じて延長の場合あり	講演2 (9:00~10:30) 「現代アートとしてPMC作品に 求めるもの(作品展に必要な要素)」 「PMCカンファレンスUSA報告」 講師/市村禮子	
21:00		閉会式 (10:30~11:00)	
22:00		オプショナルツアー 出発～阿蘇観光 (11:15～)	
		昼食/草千里 (12:00~13:00)	
		阿蘇山火口見学 (13:00~14:30)	
		阿蘇山～熊本駅到着・解散 (14:30~16:00)	

## セミナー1 [1日・15:00~17:00]

## 「立体構成のジュエリーデザイン」 市村禮子先生

これまで、日本貴金属粘土協会の作品コンテストに於いて、審査委員を引き受けた中で市村先生が気付かれた事。それは、PMCジュエリーには立体構成のデザインが非常に少ないということでした。粘土という素材から造形する時に、その柔らかさゆえに見失う、空間をデザインすること。金工、彫金、陶芸の作家として、また指導者として海外にも活躍の場を持たれる市村先生から、立体構成をデザインに取り入れる考え方やコツを、直々に学べる絶好のチャンスです！受講者は実際に紙を使って、空間を活かした様々な立体デザインを創作しながら、その楽しさと奥深さを学びます。



## セミナー2 [1日・17:15~18:15]

「ソフニングの解説と彩りいぶしのハイテクニック」  
後田麗 本部講師

PMCで立体構成をするのに必要なテクニックに「ソフニング」があります。これは、PMCの特性を活かした、乾燥体を必要な部位だけしなやかに曲げるテクニック。もともとテクスチャー（地模様）のデザインを潰さずに造形できる事をメリットとするシルバークレイアカデミーが発見したテクニックです。そのテクニックを後田本部講師にレクチャーして頂きます。また、後田先生が7月に出版された「私だけのシルバーアクセサリー」で初めて発表した彩りいぶしの更に奥深いテクニックを今回初めてご紹介して頂きます。また、オリジナル開発商品「シルバーストップ」の効果的な使用方法もご紹介致します。



## セミナー3 [2日・10:00~11:30]

## 「シートタイプのクイリングテクニック」 後田麗 本部講師

ペーパークラフトのテクニックとして知られるクイリングを、シートタイプで表現するアメリカ人気の「PMCクイリング」でペンダントトップを作ります。今回のカンファレンスで唯一の全員が制作するセミナーです。PMCの値上がりで体験セミナーがやりづらくなったとの声にも応えるもので、シートタイプの4分の1(500円以内)でペンダントトップが出来ます。道具もカッター、定規、爪楊枝、のり、ペースト(少量)で、楽しく簡単に出来るので、体験にぴったりです。基本の作り方とPMCならではのコツを学べば、応用で豪華な作品も出来るようになります。



## セミナー4 [2日・11:30~12:00]

「ティア・アウエイとシリコンで作るシートとその応用」  
後田麗 本部講師

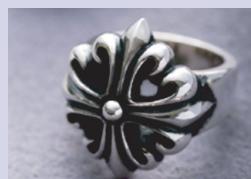
PMCギルドUSAのシニアインストラクター、シリーファーゴ女史から学んだトナー印刷から浅い立体のテクスチャーをポリマークレイで写し取るテクニック（ティア・アウエイ）と、その凹凸を更に弾力のある透明シリコンに写し取るテクニック。そのシリコンシートテクスチャーでリングメーカーに応用する方法などをデモンストレーションで紹介します。クイリングセミナーに続けて、又は焼成の間に行います。



## セミナー5 [2日・13:00~14:00]

## 「漆黒のいぶし」 市村禮子先生

「いぶしで銀を真っ黒にしたいけれど…」それはよく尋ねられる要望ですが、硫黄を使った硫化では絶対に出せません。そこで今回、市村先生にお願いして、銀に漆黒のような黒を表現するテクニックを特別に教えて頂く事になりました。それは、銀の輝きを際立たせる黒とのコントラストを楽しめるものですが、うるしのように表面に塗るようなものではなく、化学反応で真っ黒にする、金工の本格的なテクニックです。しかも希望者は自分の作品を持ち込んで、自分で体験させてください、大変貴重なセミナーです。



## セミナー6 [2日・14:15~15:15]

「アクセサリーパーツ使いの基本とワイヤーワーク」  
田尻鏡香 テクニカルアドバイザー

アクセサリーを制作するのに必要な、パーツを組み上げる時の基礎知識と、純銀線や950線を使ったワイヤーワークを指導します。ワイヤーワークの基本をマスターすれば、エンドパーツやジョイントまでも、オリジナル制作が楽しめるようになります。作品をより個性的にみせるPMCと組み合わせたパーツ制作も魅力です。バーナーワークも行ないます。



## セミナー7 [2日・15:30~16:30]

「私のPMCジュエリー、イメージを形にするプロセス」  
南雲理枝先生

PMCジュエリーデザインで、全国に多くのファンをもつ南雲先生に、イメージしたものを形にするまでの南雲理枝先生のプロセスを教えていただきます。ジュエリーをデザインするときのこだわりや、デザイン画の描き方、よりリアルにイメージを頭に刻み込むコツなどをお話していただきます。また、先日発売された「男の銀細工」の監修秘話や、男性にPMCを教える時に心がけることなど、先生の経験に基づく男性向けセミナーのアイデアを教えて頂きます。



## セミナー8 [2日・16:45~17:45]

## 「PMCとレジンのコラボレーション」栗元一久会長

近年ジュエリーフェアでも人気のレジン。貴金属とのコラボレーション作品も入賞しています。そこで栗元会長に、原型の作り方、シリコンでの全面型の作り方、レジンの着色、注型までの基本と、PMCとの組み合わせまでをデモンストレーションと解説で詳しく教えていただきます。注型樹脂は作り方さえ知れば、その完成度の高さでPMCの可能性を大きく広げる素材になります。失敗しないコツをしっかり学んで、PMC作品製作に応用してください。材料は全て後日サテライト店でお求め頂けます。

## 講演1 [2日・18:00~19:00]

## 「発明者が語るPMCの開発秘話」

工学博士 森川正樹氏

森川博士は三菱マテリアル㈱在籍中に、純銀粘土PMCをはじめ金カード（純金名刺）、ダイヤゴールド等を発明された工学博士です。純銀粘土PMCは、森川博士の発想の転換から生まれたものと言っても過言ではありません。当時の開発メンバーに三田工場の平澤氏がいたことも知られています。これまで三菱関連企業の取締役を歴任される超多忙な毎日をお過ごしだった森川博士において頂き、今回初めてPMCメンバーの前で、生みの親としての「開発の秘話」を聞かせて頂ける事になった、本当に貴重な講演です。



## 講演2 [3日・9:00~10:30]

「現代アートとしてPMC作品に求めるもの  
(作品展に必要な要素)」

## 「PMCカンファレンスUSA報告」市村禮子先生

金工、彫金を極められ、世界で活躍される市村先生からアカデミーのみなさんへ、現代アートの素材としてPMCに期待されること。そして作品展やコンテストに出品する作品に必要な要素を、審査される立場からお話しして頂きます。親友のティムマックライト氏が代表を務めるPMCギルドUSAが開催する「PMCカンファレンスUSA」に日本人向け通訳として、これまで3回参加された経験をもとに、アメリカでのPMC事情とカンファレンスの報告もお聞かせいただきます。



Sumi brush／作・ティム マックライト氏

## インストラクター対象特別研修会

1日・20:00~21:30

## 「カリキュラム別認定審査基準の解説」

後田麗本部講師／田尻鏡香テクニカルアドバイザー

シルバークレイアカデミーの認定カリキュラム「スタンダードコース」「アドバンスコース」「アートジュエリーコース」の作品審査を担当される後田先生と田尻先生に、作品審査で確認される技術的な内容を作品別に解説して頂く、Aインストラクター、講師の方を対象にした研修会です。指導した生徒の作品を1回の審査で合格させるために、どこを事前に注意して指導しなければならないかを、しっかり確認して頂きたいと思っています。また、なぜこうなるのか、この工程を行う理由など、見落としている理由や理屈を確認し、生徒にご説明頂く事が、指導者にとって重要な事だと思いますので、指導方法のご相談も含めて、わからぬことをこの機会にぜひご質問ください。ご自分の作品をお持ちになられると、よりわかり易いと思います。

## セミナーにご持参頂くもの

## セミナー1

・はさみ・液状のり・定規

## セミナー3

- ・PMCシートタイプ(ロング)・PMCペースト少量
- ・純銀差し丸カン・液状のり・ステンレスブラシ(毛長)
- ・磨きヘラ・定規(15~20cm)・カッター(スライサー)
- ・シャープペンシル

## セミナー5

- ・黒にいぶしたい銀作品・いぶしを取るスポンジヤスリB~D
- または研磨セット(シルバークロス、グラノール、耐水ペーパー)

## その他

- ・チャームスワップ用名刺(カード)付チャーム※持つてこれる方
- ・PMC作品(人気作品コンテスト用作品×1点)※自由参加
- ・筆記具、ノート(デジカメ等もお持ちいただけます)

## ウェルカム夕食会

1日・18:30~20:00

自己紹介	参加者の皆さんに簡単な自己紹介をお願い致します。
PMCチャームスワップ	自分の名刺にPMCで作った小さなチャームをつけて交換し合います。自分らしさをチャームにして、たくさん作ってきてください。



## 懇親会パーティー

2日・19:15~21:30

PMCトリビアクイズ大会	3人1組の三択クイズでPMC関連商品をGETしよう!
作品展示・人気作品コンテスト	<p>PMC作品をご持参下さい。当日会場に無記名で展示致しますので、パーティー開催中に自分の作品を除くお好みの作品にシールを貼って下さい。最も多くのシールを貼られた作品に賞品を贈ります。ただし、「私の作品にシールを貼って」のお願いは禁止です。また、ゲスト講師にもそれぞれ好みの作品を選んで頂き、賞品をご用意します。</p> <p>※希望者には市村先生から、ちょっと辛口な作品講評とアドバイスをして頂けます。</p>

## 宿泊について

- 部屋割りは当日お知らせしますが、4~6人部屋となります。ご了承下さい。
- 研修所はホテルではありませんので、ご使用になる洗面道具(ハブラシなど)・シャンプー・リンス・タオル・バスタオル・寝間着等はご持参下さい。
- お部屋には全室温風ヒーターが備わっています。電源もあります。
- 電話の取次ぎはできませんので、携帯電話をご利用下さい。
- お風呂は天然温泉です。24時間ご利用頂けます。(石鹼はあります)
- ドライヤーはご持参頂き、必ずお風呂の脱衣場でご使用下さい。(お部屋でのご使用はブレーカーが落ちる可能性があるため、ご遠慮下さい。)
- TVはロビーでお楽しみ下さい。(部屋にはありません)
- お湯は湯沸しポットを用意してあります。(ロビーのみ)
- 娯楽室には卓球台があります。



## 日程

2008年11月1日(土)・2日(日)・3日(月・祝日) ◆11月1日14:00集合～3日11:00閉会  
会場:熊本県立大学阿蘇研修所

## アクセス

- ◆JR熊本駅からJR豊肥本線(阿蘇高原線)に乗り換えて赤水駅下車。
- ◆熊本産交バス「赤水駅前」から「内牧行き」に乗り(約20分)千丁無田(せんちょうむた)下車。徒歩3分。

※JR博多駅から出発する方で、阿蘇観光に参加する方は、お友達と2人で買う4枚切符がお得です。  
お1人の方や観光をされない方は「阿蘇観光キップ」(博多 ⇄ 赤水)往復6800円がお得です。  
(各自で以下の列車を予約してください)

博多駅10:10発 特急りレーフばめ7号 熊本11:25着(4枚切符で1枚あたり2,000円)※往復4,000円  
熊本駅11:36発 九州横断特急 赤水12:35着(片道1,920円)  
※ツアー参加者はバスで熊本駅まで送ります。

- ◆バス:熊本産交バス内牧行き(280円)  
赤水駅前13:15発 千丁無田13:35着(※バスの本数が限られていますので必ずこのバスにご乗車ください。)  
徒歩3分 研修所13:40着

## 参加費用

30,000円 (2泊分宿泊費、5回分食費、セミナー料、パーティ料含む)

※会場まで、また、会場からの交通費は含みません。

**最終日の阿蘇観光ツアー参加料:5,000円 (貸切バス、昼食代、ロープウェイ代含む)**

研修所11:00発→草千里(昼食)→阿蘇中岳火口見学(ロープウェイ)→熊本空港→熊本駅16:00着

※天気や状況によって行程や目的地を変更する場合があります。

※自家用車で参加の場合は、昼食代、ロープウェイ代、駐車料実費をお支払ください。

※熊本発博多駅行きは、16:10、16:28、16:55分発があります。

## 阿蘇山 ~ウィキペディアより~

阿蘇山(あそさん)は、熊本県の東部に位置する活火山。世界最大級のカルデラ(火山の活動によってできた大きな凹地)と雄大な外輪山を持ち、「火の国」熊本のシンボル的な存在として親しまれている。火山活動が平穏な時期には火口に近づいて見学できるが、活動が活発化したり有毒ガスが発生した場合は火口付近の立入りは規制される。

外輪山の内側を中心として阿蘇くじゅう国立公園に指定されている。温泉や観光・レジャースポットが点在する有数の観光エリア。夏になると多くのライダーがツーリングで訪れる場所である。

なお「阿蘇山」はあくまで俗称であり、正式には阿蘇五岳(あそごがく)という(現噴火口のある山は「阿蘇中岳」)。

2007年、日本の地質百選に選定された(「阿蘇」)。

